

◎ ご挨拶	2
機械クラブ会長 M⑩ 富田 佳宏	
◎ 平成27年度第1回「機械クラブ理事・代表会」報告	2
◎ 平成26年度総会講演会	3
◎ 平成27年度「先輩は語る」講演会	4
講演題目：「自然災害から都市を守る」	
講師：大阪府都市整備部河川室 M(48) 西田 英士 氏	
（併催）学生の海外渡航報告	
<u>機械クラブ国際活動奨励賞 受賞者</u>	
佐々木 翔平 氏 (D1), 稲川 毅 氏 (M2), 奥田 龍弥 氏 (M2),	
川 智明 氏 (M2), 村松 瑛 氏 (M1), 野末 貴大 氏 (M1)	
◎ 平成27年KTC 機械クラブ東京支部総会開催報告	6
◎ 第3回座談会「16回生から19回生の学生時代の思い出を語る座談会」報告	7
◎ 寄稿文：思い出の架け橋 掲載リスト	8
◎ 機械クラブゴルフ同好会 (KTCMG) 報告	9
● 第162回コンペ報告（平成27年4月28日）	
◎ クラス会 報告	9
● M⑮クラス会（平成27年6月20日～21日）	
● M⑩同期会（平成27年5月15日）	
◎ 機械クラブホームページのご案内	10
◎ KTC と KTCM の違いについて	11

機械クラブ年会費納入者名簿

KTC 機関誌 単位クラブだより 掲載内容

KTC 機関誌 第81号の単位クラブだよりには下記項目を掲載しておりますので、そちらもご覧下さい。

- ◎ 「平成26年度 機械クラブ総会・講演会」報告
- ◎ クラブ精密 平成27年度（第28回）総会報告
- ◎ クラス会開催報告
 - M③同窓会
 - M⑧同窓会

◆ ご挨拶

機械クラブ会長 M⑩ 富田 佳宏



地震、火山噴火に未曾有の集中豪雨、竜巻などの自然現象が日本列島に災害をもたらしておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。日頃の会員の皆様方の KTCM 活動へのご理解とご支援に感謝申し上げます。

機械クラブの活動を詳しく紹介するために刊行致しております“機械クラブだより”も今回で第 8 号となります。皆様に興味をお持ち頂ける内容にすべく担当部会にて鋭意努力致しております。ぜひ皆様方からご感想、ご提案など賜りますようお願い申し上げます。

KTCM の活動は、各部会の自発的な活動によって支えられており、それぞれの部会において鋭意対応頂いております。会員の皆様が各部会が提案する多様な催しに参加され様々な価値を見出して頂くことならびに先輩の広範多岐な分野における目覚ましいご活躍を目の当たりにして、機械工学科を卒業したことに自信を持ち、自身の確度の高い将来像を描くことを可能にすることなどが KTCM の主要な活動目標であると考えております。さらには、母校の教員ならびに学生諸君の研究教育ならびに部活動などに多方面から支援も行っております。KTCM のホームページには各部会の活動の詳細、今後の企画などについての情報がございます。ご覧頂き積極的にご参加下さいますようお願い致します。

会員の皆様方に納入頂きました年会費や寄付金をこのような KTCM 活動の原資としております。本号に財務部会から会員の皆様に具体的なお願いを致しております。

今後とも KTCM 活動に、会員の皆様方の忌憚のないご意見を賜るとともに一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。会長の挨拶とさせていただきます。

◆ 平成 27 年度 第 1 回「機械クラブ理事・代表会」報告

総務部会長 M⑧ 平田 明男

開催日時:平成 27 年 6 月 12 日(金) 11:10~12:20
開催場所:機械工学専攻 大会議室 (C4-402 室)
参加者数:会長以下 25 名

議事概要

1. 会長挨拶 (概要)

富田会長から、先行して開催された講演会の講師、報告者への謝礼と参加した学生への期待の言葉があった。部会活動に対する活性化の尺度については統一した尺度の提案は困難であり、現時点、各部会行事への参加者数、案内に対する返信割合などを一つの尺度と考えている。各部会からの提案をお願いしたい。これらの活動が年会費納入者数増加や寄付金増額につながることを期待している。ホームページも会員参加と担当の努力により充実してきた。

今後とも KTCM 活動に忌憚のない意見を賜りより一層の支援、協力をお願いしたいとの挨拶があった。

2. 機械工学専攻の近況

磯野吉正専攻長から、学科構成、教員の異動、研究のトピックス、学生の進路について幅広く説明を頂いた。学生の進路は学部卒 105 名中 78 名が大学院進学、修士修了 85 名中 2 名が進学。関西基盤の企業への就職が主で首都圏への就職が少ないのが課題である。トピックスとしては来年度からカリキュラムの全面改定を検討中である。特徴は進路によって必修科目を 4 つのコースに分けること、セメスター制 (前後期制) からクォーター制に移行し、学生の短期海外留学 (3 ヶ月) への対応が容易になることなどが挙げられる。

3. 総会後の各部会の動きについて

各部会長より資料にもとづき報告。

3.1 総務・HP 部会 (平田部会長)

- ・学生支援:フォーミュラ、レスキューロボへの支援金を本日、会長から両代表に贈呈した。
- ・ホームページの改善に取り組んでいる。アップロード 5 件、メール一斉配信 5 件
- ・国立国会図書館のオンライン自動収集システ

ムに座談会寄稿文を登録。

- ・今回 312 名の方に案内を差し上げたが回答数 151、出欠可否は別にして回答をお願いします。

3.2 財務部会 (副島部会長)

配布資料により以下を説明があり了解された。

- 1) ゆうちョダイレクトへの団体登録が厳しくなっている。今回の代表者変更により会則への設立日、所在地明記が求められた。昭和 62 年 3 月 26 日としたい。
- 2) 財務部会から各部会への支払いは原則として銀行口座振り込みとしたい。
- 3) 年会費振込後の処理を電子化した。
- 4) 会費収入の取扱いに予算書と会計報告で差異があったので振込手数料差引前に統一する。
- 5) 予算書変更提案 複数年会費の取扱いを当該年度分と前受に分離し管理する。財産目録を追加する。今年度会計報告から本日提案した予算書にもとづき改訂したい。
- 6) 「ゆうちョ銀行払込取扱票」の文面を変更する。①氏名を明記 ②KTC 会員番号が不明の場合記入不要 ③住所、メールアドレスに変更がない場合は記入不要
- 7) 年会費処理ルールの説明。

3.3 機関誌部会 (平田総務部会長が代行)

- ・「機械クラブだより」を初代の 2 刊を含めホームページに掲載した
- ・機関紙 81 号 (9 月発行予定) の編集。特集「先端膜工学センター工学研究拠点」
- ・機械クラブだより 8 号 (9 月発行予定) の編集。

3.4 講演会部会 (白瀬部会長)

- ・「先輩は語る」講演会、及び学生の国際活動報告を本日予定通り実施した。
- ・「六甲祭協賛講演会」 11 月 14 日 (土) 開催
- ・「若手研究者は今」 12 月 12 日 (土) 開催

3.5 見学会部会 (平田総務部会長が代行)

9 月 9 日 (水) 開催に決定。見学先は三田テクノパーク 2 社 ①(株)モリタ：消防自動車のリーディングカンパニー ②沢井製薬：ジェネリック医薬品製造。懇親会を開催する。

募集人員は 30～35 名程度を予定している。

3.6 会員親睦部会 (光田部会長)

- ・162 回は雨天が予想されたため 4 月 28 日に加西インターCC にて実施した。今年度の開催予定日を
- 163 回 7 月 21 日 (火)：募集中。

164 回 10 月 20 日 (火) に決定。

- ・M⑱以降の会員募集に注力している。

3.7 座談会部会 (坂口部会長)

第 3 回座談会「16 回生から 19 回生の学生時代の思い出を語る座談会」を 5 月 16 日 (土) 工学部で開催。出席者 12 名機械クラブ役員 5 名。実行委員 12 名参加。懇親会を AMEC3 で開催。

坂口部会長より口頭で今後の進め方について紹介があった。第 4 回座談会を 20 回生から 25 回生を対象として来年 5 月開催を目指して計画当中である。これ以降の回生はまだ会社で現役であり出席者を集めるのが困難と予想されるため以下を検討中である。①「同窓会付き座談会 (仮称)」：研究室単位の座談会で第 1 講座から始めたい。②「機械技術者生活を語る座談会」：第 1 回座談会に出席された M⑨玉中氏より提案があったもので、学生に対し経験豊富な機械技術者から講話を行った後、小グループで懇談するもの。学生の参加については専攻長の承認済である。10 月 3 日 (土) に第 1 回を開催予定で準備中である。①、②については趣意書を作成する。

3.8 クラブ精密 (島代表幹事)

5 月 14 日 (木) 神戸市水道局大容量送水管整備事業「布引立坑」見学後総会を展望レストハウスにて開催した。参加者 15 名内正会員 7 名。

3.9 東京支部 (平田総務部会長が代行)

東京支部総会 (7 月 15 日 (水) を予定) に向け幹事会を開催。

3.10 今後の予定

第 2 回理事・代表会 12 月 12 日 (土) 工学部
平成 27 年度総会 3 月 25 日 (金) 兵庫県私学会館

◆ 平成 26 年度総会講演会

日時：平成 26 年 3 月 25 日 (水) 17:15～18:20

場所：兵庫県私学会館

講師：JFE メカニカル(株)
取締役副社長

仲田卓史氏 (M②)

演題：安全文化を創る

出席者：73 名

講演概要：

1. JFE メカニカル：

NKK と川崎製鉄の統合による JFE スチール



誕生に合わせて翌年そのエンジニアリング会社（メンテック機工と川鉄マシナリー）も2004年に統合し、誕生した。

2. 統合時の両社融合のための一つとして、2005年1月、高い安全文化を構築し、「日本一安全な工事会社」の実現を目指して「安全文化創生活動」に取り組む。

3. 従業員 2,600 名＋協力会社 4,300 名が働く会社であり、自動化、機械化も難しい状態。道工具による事故が1位を占める。危険な仕事を、いかに安全に実施するか？が最も重要。

4. 改善のために、デュポン社にコンサルタントを依頼。デュポン社は人間行動に焦点を当てて、安全を考えている会社、との情報から。

5. 「安全文化 Safety Culture」という考え方は1986年に発生したチェルノブイリ事故の原因の調査と検討の結果をきっかけとして生まれたもの。国際原子力機関（IAEA）の国際原子力安全諮問グループの提言による。「安全文化」とは、組織と個人が安全を最優先する風土や気風のこと。

6. ブラッドリーモデルの考え方にに基づき、現状を分析/理解した上で、理想の状態に近づけるための方策を展開し、実行してきた。

7. 目指すのは「誰が見ていなくても安全な行動が実行できること」。

これを実現するために、

- ・階段の昇降は必ず手すりを用いること
- ・必ず横断歩道を用いた道路横断をすること

といった当たり前のことを社員全員に徹底させて、実際の現場作業でも、安全で慎重な行動がとれるようにする。

8. 管理者は、「意図しないメッセージを伝えていないか」を気にかける

- ・現場に行かない
- ・不安全行動を見て見ぬ振りをする
- ・納期が危なかったら現場に行って、安全よりも納期を優先させるような態度を取るなど

9. James Reason 著 Managing The Risk Of Organization Accident（「組織事故」）を「安全文化を創る」活動の参考にした。

10. 現状認識→価値観共有→根付かせる→維持の Step が大切。特に管理者は Felt Leadership（感じてもらえる指導力）が大切。

部下、仲間から、「この人は本当に自分達の安全のことを考えてくれていて、事故、災害を起こして欲しくないと心から思っている」と感じてもらえるリーダーシップ。

11. この活動を10年行ってきて、事故度数率は当初0.5～0.7から0.2～0.3へ低減してきた。

12. 「安全文化」を浸透させていくために、朝礼、会議の前には必ず「安全対話」を行い、パトロールも「対話型パトロール」を導入した

安全対話：私生活でヒヤリとしたこと、失敗などを話すことで身の回りにいろいろな危険が存在することをいつも認識させる

対話型パトロール：安全パトロールで、改善点指摘→改善させる という管理型でなく作業の問題点を現場で話し合い、作業者に対策を考えて実行を約束してもらう

13. 大切なのは

- ・トップの強い思い、リーダーシップ
- ・変わる事への動機付け、ベクトル合わせ
- ・経営資源の投入
- ・すぐに効果が出なくても我慢すること

とされている。

14. 今回の知見を基に、安全ビジネスへの参入も考えている。

◆ 平成 27 年度「先輩は語る」講演会

－併催：機械クラブ国際活動奨励賞受賞者の成果発表－

講演会部会長 白瀬 敬一 M⑩

林 公祐 M⑤

日時：平成 27 年 6 月 12 日(金) 8:50～11:00

場所：神戸大学工学部 5W-301 教室

◎ 「先輩は語る」講演会

講師：大阪府都市整備部河川室

西田 英士 氏 (M(48))

演題：

自然災害から都市を守る

講演概要：

いかにして“自然災害から都市を守る”か。本講演会では、西田氏がハード・ソフト

の両面から取り組んでおられる災害対策についてわかりやすくお話しいただいた。まず導入と



して、インターネットを通じて誰でも閲覧できるハザードマップ（防災マップ）を使って、三宮などの都市部や大学周辺の洪水・津波・土砂リスク評価マップをご紹介いただいた。よく知っている街が対象なのでわかりやすく、意外なところにリスクがあることに気づかされた。神戸大学は土砂災害の避難所に指定されている。これはソフト面での災害対策のひとつである。

さて、ここからが本題である。前半はハード面、後半はソフト面でのお話であった。ハード面では、洪水・高潮・津波からいかに都市を守るか、すなわち、雨をいかに効率よく海に流すか、津波・高潮をいかに防ぐか、その取り組みが紹介された。これらは、貯める（ダム、治水公園）、流す（地下河川）、止める（防潮水門）に大別されている。なかでも大阪の地下河川事業は全国的にもめずらしい取り組みで、現在進行中の大きなプロジェクトということであった。

大阪のアーチ式水門についてご紹介いただいた。90度倒れて浸水を防ぐ水門で、構造の機械的な説明を詳しくお話しいただいた。大阪では大きな船が頻繁に出入りするためコストを削減するよう工夫された構造である。日本に3台しかないこの方式の水門は全て大阪府にある。排水機場の一例も写真を交えてその巨大さや構造をご紹介いただいた。

高潮水門を用いた治水策事例をご紹介いただいた。大阪はもともと湾や河内湖を埋めているために地盤が低く、排水しにくいいため、河川を作る事業が重要とのこと（北部・南部地下河川）。また、高度成長期の地下水くみ上げによる地盤沈下のため満潮時水位よりも地盤が低いといった、災害対策の必要な地形となっている。

高潮対策：防潮水門方式で止める（都市部の防潮堤は低く抑えたい）。本流が流れなくなるので、その分は排水機場で淀川に流す。そのためには非常に大きなポンプが必要（1秒で25mプールを貯めるほどの性能を要する）。

津波対策：もともと防潮堤で守るという考え方をしてきた。震災を機に想定以上の津波への対策を議論してきている。防潮水門を活用できないのかという意見もあるが、津波のエネルギーを抑えられるものではないため、水門が

故障する可能性がある。しかし今は水門を「閉めて防ぐ」ことになっている。これは人命を優先してのことである。まずは人命優先の対策とし、水門のどこが故障するのか見極め、そこを補強する、という方針で様々な検討を行っている。大阪府河川構造物等審議会「津波対策検討部会」において3年前から継続審議中。3大水門の耐力検討の事例をご紹介いただいた（外力計算、評価基準などを検討。どの外力評価式を使うのか、環境設定についてフローを作成。選定した解析モデルで津波外力をケーススタディ。アーチ型のため形状モデルを3次元骨組みモデルにする工夫など）。これらの分析により、どこがもたないかはわかってきており、どう補強していくかを検討しているところである。

ソフト面の防災推進の事例として、津波・高潮ステーション（阿波座）での取り組みをご紹介いただいた。海拔0地帯のジオラマ、過去の災害資料、ダイナキューブなどの展示がある。ダイナキューブの映像を鑑賞させていただいた。

最後に、学生に向けたメッセージをいただいた。仕事は大勢の人に影響を与える。自ら発信していく立場になる。発信することへの根拠、裏付けが重要。特に機械工学では設計、商品開発において工学的な根拠、裏付けが大変重要。そのもとになるのはいま大学で学び始めた機械工学の知識。それをこれからどれだけ身につけられるかが大事。自由になる時間は大学のときにはあるので、有意義に使ってほしい。大学の教員は各専門分野において先駆的立場にある。その大学教員に身近に接することができる恵まれた環境にあるので、環境を活用してよく勉強していただきたい。

◎ 機械クラブ国際活動奨励賞受賞者の成果発表会

「先輩は語る講演会」とともに機械クラブ国際活動奨励賞およびプレミアムプログラム報告会が併催された。受賞者6名のうち、佐々木君、村松君、野末君から、国際活動の体験談や、後輩学生に向けたメッセージが語られた。他の受賞者は都合がつかず現地には来られなかったが、資料を準備してもらい、白瀬教授から代理

でお話しいただいた。よく勉強すること、英語を身に着ける努力をすることの重要性を痛感した、というメッセージは、これから学び始める初年次生には重要である。TOEIC IP や KTC の TOEIC 受験料補助など英語学習を啓発する環境もあるので、頑張っていたきたい。入学して間もない1年生にとっては将来の卒研、就職などのイメージが持ちにくいところと思うが、西田氏に見せていただいた十数年後の像、先輩学生が語る数年後の未来に、何かしら目標が見いだせたのではないだろうか。

平成 26 年度受賞者 (所属、学年は受賞当時)

- 佐々木 翔平 (博士課程後期課程 1 年)
 会議名 : 2nd Int. Symposium on Multiscale Multiphase Process Engineering
 開催地 : Hamburg, Germany
- 稲川 毅 (博士課程前期課程 2 年)
 会議名 : 16th Int. Conference of Experimental Mechanics (ICEM16)
 開催地 : University of Cambridge, UK
- 奥田 龍弥 (博士課程前期課程 2 年)
 会議名 : APCOM & ISCM 2013 : 5th Asia Pacific Congress on Computational Mechanics & 4th Int. Symposium on Computational Mechanics
 開催地 : Singapore
- 川 智明 (博士課程前期課程 2 年)
 会議名 : TMS 2015 144th Annual Meeting & Exhibition
 開催地 : Florida, USA
- 村松 瑛 (博士課程前期課程 1 年)
 会議名 : 9th Int. Symposium on Ultrasonic Doppler Methods for Fluids Mechanics and Fluid Engineering
 開催地 : Strasbourg, France
- 野末 貴大 (博士課程前期課程 1 年)
 会議名 : ANS 2014 Winter Meeting and Nuclear Technology Expo.
 開催地 : Anaheim, USA



村松 君



佐々木 君



野末 君

◆ 平成 27 年 KTC 機械クラブ東京支部総会 開催報告

東京支部幹事 M[㊦] 濱田貴弘

今年の会合は、平成 27 年 7 月 15 日 (水) 19 時~21 時に東京六甲クラブにて開催されました。当日は、暑いなか、さらに、台風による雨も心配されましたが、神戸より KTC 機械クラブ会長 富田佳宏様、KTC 前理事長 藪忠司様もかけつけてくださり、初めて参加して下さった方などもあわせ、総勢 14 名の方々にお集まりいただきました。

まず、はじめに、総会では、新支部長の前塚洋氏のご挨拶の後、幹事の井上幸夫氏より会計報告がおこなわれ、前期の決算の承認等が、滞りなく了承されました。

次の講演会では「医療に生きる機械工学技術」という題目で、神戸大学教授 山根隆志先生より人工心臓や、人工透析に関わる最先端技術のお話や、医療現場でのトピックなど、とても、興味深いご講演を賜りました。特に、50 歳を過ぎて、健康が気になりだした私など、医療の分野に機械のさまざまな工夫が活かされているお話は、感慨深いものがありました。



山根隆志先生による講演

続いて、同窓会の部では、富田会長より、神戸大学の学生がフォーミュラーカーやレスキューロボットの分野などで奮闘しているお話、それらの活動に対して KTC 機械クラブより支援を行っているお話など、神戸の近況も交えてお伺いすることができました。また、「機械クラブのホームページの取り組みについて、日々、改善に向け検討しているので、ぜひご覧いただき、ご意見を頂きたい」とのご依頼がありました。先にご紹介した学生の活動への支援や、その他

さまざまな KTC 機械クラブの活動は、OB の皆様の年会費や寄付によって賄われています。そのためにも、ぜひ、ご協力いただければ幸いです。

その後、藪前理事長より、ご挨拶と乾杯のご発声をいただき、懇親会へと移りました。懇親会では、ご出席いただいた皆様より、一人ずつ自己紹介を交えた会の感想や、今回、同窓会に参加しての歓びの声を多数いただくことができました。中でも、特に多かったのは、この度の山根教授のご講演に対する関心の高さだったかと感じております。

最後に、当日ご出席いただいたメンバーの中で最年長の田中正夫様（昭和 41 年卒）に、一本締めにてしていただき、無事、閉会となりました。

同窓会は、卒業年度は違うにしても、同じく機械系学科を卒業した皆で楽しめる、有意義な集まりです。ぜひ、これからも、ひとりでも多くの卒業生の方にご参加いただければと幹事一同考えております。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

今後の予定としましては、今年の 10 月 5 日(月)に、グランドヒル市ヶ谷にて、KTC 東京支部総会と KOBE 工学サミットが開催されます。今年は、KTC 機械クラブが主幹事クラブとして会の運営のとりまとめをいたします。今年は、気分も新たに開催場所を例年の東京六甲クラブから、グランドヒル市ヶ谷へと場所を変え、ご講演いただく内容も大変興味深いお話をご用意させていただきます。同窓会活動の活性化のためにも、ぜひ、ひとりでも多くの方にご参加いただきたいと思いますと考えております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

また、お気づきの点などございましたら、メールにてご意見、ご感想等お寄せ下さい。

出席者（卒業研究でお世話になった先生）（敬称略）

山根隆志教授,
M⑫藪忠司(進藤明夫), M⑯富田佳宏(進藤明夫),
M⑭田中正夫(速水恵治), M⑰三浦克彦(木村雄吉),
M⑱磯山茂(中川隆夫), M⑳仲田卓史(木村雄吉),
M㉑遠山克己(木村雄吉), P⑨田尻誠之(進藤明夫),
M㉒前塚洋(木村雄吉), M㉓井上幸夫(村田英人),
M⑳加藤善雄(坂口忠司), M㉔濱田貴弘(村田英人)

◆ 第 3 回座談会「16 回生から 19 回生の学生時代の思い出を語る座談会」報告

座談会部会長 M⑧ 坂口 忠司

開催日時：平成 27 年 5 月 16 日(土)

12：55～16：40

開催場所：工学部本館 2 階 多目的会議室

参加者数：25 名

機械クラブでは、これまでも同学年の同窓生の親睦と交流を図る回生ごとの同窓会が適宜開催され、その様子は機械クラブのホームページの「クラス会だより」に掲載されています。これに加えて、新たに回生・年齢を跨いでの同窓生の知己を得て、機械クラブ全体の会員間の親睦と交流を増進するための集いとして、数年の回生に亘る同窓生が一堂に会し、思い出を語る座談会が実施されています。それらの報告は「機械クラブだより」に掲載されています（第 1 回座談会は「機械クラブだより－第 6 号－」（2014(平成 26)年 9 月 1 日発行)の 5 頁に、第 2 回座談会は「機械クラブだより－第 7 号－」（2015(平成 27)年 3 月 1 日発行)の 7 頁に掲載されています）。この度、それに続く回生に依る第 3 回座談会を「16 回生から 19 回生の学生時代の思い出を語る座談会」と題して、同じ会場で開催いたしました。

第 3 回座談会には、16 回生から 19 回生まで、各回生 3 名の合計 12 名の同窓生が出席されました。ここに掲載されている機械クラブ関係者を含む全員の集合写真と出席者名簿をご覧いただければと思います。同期の方々にとっては、また同じ講座の方や、同じ企業で働かれた方にとって、懐かしい顔を見つけられるのではないのでしょうか。

座談会の始めの部分で、ご出席の 12 名の方々にお名前、回生、研究指導の先生名、卒業後のご活躍のごく簡単な紹介に加えて、現在熱中している事、特技、趣味等から、これはと言う事項を一つご紹介いただくことを追加いたしました。これによって、一堂に会した皆さんの交流の切っ掛けが一層増すことを期待しました。

この「16 回生から 19 回生」の時期は、「大学紛争」の時期でした。沢山の諸々の思いを胸に秘しながらの発言でした。座談会の第 1 部では、事前に頂いたアンケート結果に則り、2 大テーマ「卒業研究、研究テーマ」、「授業、試験」を話

題に全員からお話を戴きました。

次いで第2部では、大学入試の合格発表、製図の即戦力、学内実習とその作品、卒業研究、企業での工場実習、工場見学、就職活動、友人関係などの思い出が語られました。

座談会終了後に AMEC3 において懇親会が持たれ、美味しい料理とお酒も友に、ゆっくりと腰掛けて初対面の人との懇談が続きました。帰途の神戸大学百年記念館からの夕景は美しいものでした。

前回までと同じように、今回も、遠くからのご出席も得て無事終わることができました。これは一重にご出席くださった皆様並びに関係各

位の熱意とご尽力の賜物です。ここに記して感謝の意を表させていただきます。

なお、第1回並びに第2回座談会の場合と同様に、ご出席の皆さんに、当日話された内容を中心に適宜思い出を追加した文書を作成し、機械クラブのホームページ中の「寄稿文：思い出の架け橋」へ寄稿して下さいとお願いしました。全員からのご寄稿を期待しているとの願いを伝えました。

座談会部会では、第4回座談会を、20回生から25回生辺りの卒業生にお願いして開催できればと考えています。該当の卒業生の皆様のご協力・ご理解をお願いいたします。

「16回生から19回生の学生時代の思い出を語る座談会」出席者

(順不同、敬称略)

回生	氏名	卒業研究の講座の先生	回生	氏名	卒業研究の講座の先生
M⑩	高橋武敏	進藤明夫	第3回座談会実行委員会委員		
	野崎正美	赤川浩爾, 井上 清	M⑧	坂口忠司	赤川浩爾, 武藤万秋
	富田佳宏	進藤明夫, 瀬口靖幸	M⑨	永島忠男	赤川浩爾, 武藤万秋
M⑰	倉坂克秀	岩田一明, 森脇俊道	M⑭	酒井善正	川井良次, 岩壺卓三
	新村 修	進藤明夫, 瀬口靖幸	M⑭	土井隆雄	中川隆夫
	萩原悦司	松本隆一	M⑮	堀 英教	川井良次, 岩壺卓三
M⑱	國光秀昭	進藤明夫	M⑰	常次正和	赤川浩爾, 坂口忠司, 沢井洋征
	副島宗矩	中川隆夫	M⑲	山岡高士	進藤明夫, 瀬口靖幸, 佐藤正明
	平田明男	井上 清	M⑳	江口 隆	川井良次
M⑲	藤井保男	赤川浩爾, 坂口忠司, 沢井洋征	M㉓	多田幸生	進藤明夫, 瀬口靖幸
	山岡高士	進藤明夫, 瀬口靖幸, 佐藤正明	P⑥	井宮敬悟	坂口忠司
	川本和夫	松本隆一, 中島 健	M⑳	白瀬敬一	
			M㉖	浅野 等	赤川浩爾, 藤井照重
			機械クラブ役員代表等		
			M⑩	富田佳宏	進藤明夫, 瀬口靖幸
			M⑱	副島宗矩	中川隆夫
			M⑱	平田明男	井上 清
			M⑳	藤井正章	森脇俊道
			M(53)	伊藤隆裕	平澤茂樹, 能登勝久



(後列左から) 常次(M⑰), 堀(M⑭), 井宮(M㉓), 伊藤(M(53)), 藤井(M⑳), 多田(M㉓), 江口(M⑳), 坂口(M⑧), 永島(M⑨), 土井(M⑭), 酒井(M⑭), 白瀬(M⑳), 浅野(M㉖)
 (前列左から) 川本(M⑲), 山岡(M⑲), 藤井(M⑲), 平田(M⑱), 副島(M⑱), 國光(M⑱), 萩原(M⑰), 新村(M⑰), 倉坂(M⑰), 富田(M⑩), 野崎(M⑩), 高橋(M⑩)

第3回座談会 集合写真

II. 寄稿文：思い出の架け橋 投稿リスト

機械クラブホームページに掲載されております。機械クラブホームページにご訪問下さい。

<http://home.kobe-u.com/ktcm/>

ここでは、「機械クラブだより—第7号—」編集後に掲載されました寄稿文の著者・題目を掲載順に示します。

- a. 竹内義治氏, 宇田武一氏, 竹嶋敏剛氏 (M⑩)
「六甲台への移転の頃の思い出」
- b. 坂頂 武夫 氏 (M⑬)
「懐かしい先生と同窓生との思い出」
- c. 木本 恭司 氏 (M⑬)
「私の学生時代そして一」
- d. 宇田 武一 氏 (M⑩)
「西代学舎にまつわる思い出」
- e. 赤川 安徳 (M⑪)
「西代から六甲台学舎へ」
- f. 國光 秀昭 氏 (M⑱)
「‘エンジニア’を生きる」
- g. 藤井 保男 氏 (M⑱)
「生涯の友との出会い」
- h. 倉阪 克秀 氏 (M⑰)
「岩田研究室に製造工学を学ぶ」
- i. 富田 佳宏 氏 (M⑯)
「神戸大学在学時の思い出」

◆ 機械クラブゴルフ同好会 (KTCMG)報告

I. 第162回コンペ報告

162回コンペを平成27年4月28日(火)に加西インターCCにて開催しました。4月に雨のため、延期したコンペで、好天に恵まれ、一日を楽しみました。今回は、予定が重複した方が多く、3組で実施しました。

光田芳弘 様 (M⑫) が優勝され、準優勝は大和敏郎 様 (M⑯)、3位は松居基夫 様 (M⑪) と、各回生の方々が活躍されました。おめでとうございます。

懇親会では優勝者の挨拶の後、井上理文様より、第1回大会の説明がありました。

- ① 1968年8月24日(土)に第1回大会を実施。
- ② 56名の大部隊となり、西宮高原GC及び宝塚高原GCの2ヶ所で実施。
- ③ 機械クラブの会費より補助金が出て、会費

4,000円(プレイ費&会食費)であった。今回の会食時、年間予定を決定した。

- ① 第163回 7月21日(火)：神有CC
- ② 第164回 10月20日(火)：場所未定



(後列左から) 野村(M⑫), 河井(M⑪), 白石(M⑧), 市橋(M⑯), 中村(M⑯), 成松(M⑯)
(前列左から) 西下(M⑫), 松居(M⑪), 井上理(M②), 井上忠(M⑧), 光田(M⑫), 大和(M⑯)

第162回コンペ集合写真

第162回KTCMGの結果概要

- 実施年月日：平成27年4月28日(火)
- 場 所：加西インターCC
- 天 候：晴
- 参加者数：12名
- 上位入賞者の成績

順位	氏名	回生	GRS	HDC	NET	新HDC
優勝	光田 芳弘	M⑫	100	28	72	22
2位	大和 敏郎	M⑯	88	15	73	12
3位	松居 基夫	M⑪	89	16	73	14

II. 第163回コンペ報告

第163回コンペを平成27年7月21日(火)に神有カントリー倶楽部にて開催しました。

今回も、予定が重複した方が多く、3組で実施しました。

永島忠男 様 (M⑨) が優勝され、準優勝は田畑芳彦 様 (M⑯)、3位は成松伸俊 様 (M⑯) と、各回生の方々が活躍されました。おめでとうございます。

懇親会では優勝者の挨拶の後、次回のゴルフ場に関し、打合せしましたが、幹事の光田が検討の上、改めて連絡することになりました。

次回は、以下の通りです。

第164回 10月20日(火)：場所未定



(左から) 中田(M14), 光田(M12), 橋本(M12), 藤井(M12), 西下(M12), 田畑(M16), 永島(M9), 成松(M16), 市橋(M16), 大和(M16), 白石(M8),

第 163 回コンペ集合写真

第 163 回 KTCMG の結果概要

- ▶ 実施年月日：平成 27 年 7 月 21 日(火)
- ▶ 場 所：神有カントリー倶楽部
- ▶ 天 候：晴
- ▶ 参加者数：11 名
- ▶ 上位入賞者の成績

順位	氏名	回生	GRS	HDC	NET	新 HDC
優勝	永島 忠男	M⑨	107	31	76	24
2 位	田畑 芳彦	M16	97	23.6	73.4	24
3 位	成松 伸俊	M16	91	14	77	12

(注)田畑氏は HDCP が WP のため準優勝となり優勝は永島氏となりました。

◆ クラス会報告

I. M15クラス会

M15 堀 英教

M15同窓会は、21 年ぶりという長い時間が経過してから、やっと 4 回目の会を開催することになりました。年度が明けた 2015 年 5 月に神戸チサンホテルで、午後 12 時 30 分から同期 20 人で行いました。長い空白があったものですから、「多分あの人だ!」という人もあれば、「この人誰かな?」というケースもありました。一番遠くから来た人は米国から、日本国内からは福島県いわき市からで、有難いことです。

M15回生は、全員 70 才を超えたにも関わらず、会社経営、自営、公務員として、或いは企業などで未だ現役で活躍中という方も数名おられ、皆さん逞しい限りでした。しかしながら、そこは歳、出席者・欠席者共どこかに弱い所があるようでしたが、これからも元気で頑張りましょう。

会食で歓談が続いたあとに、出席者全員に一

言を喋って頂きました。皆さん持ち時間の短さにご不満のようでしたが、うまく今迄の人生経験を披露してくれました。その時に一人ずつ写真を撮って、この写真と卒業アルバム(1967 年)に載っている各人の写真を使って Before & After の顔写真にして、これに本人の一言を入れた資料を作り、他に欠席者の近況、7 名の物故者の写真(卒業アルバムから)、当日のスナップ写真集(写真 52 枚を A4 で 4 枚の資料に)、最新名簿(住所、電話、メルアド)、出席者および欠席者の居所概要(日本地図上に各人の居所をマーキング)、会計報告などを 20 頁に纏めて、欠席者も含め、全員に配布しました。次回は 2、3 年以内に開催すべく世話役を決め、終了しました。また会いましょう。



(4 列目左より) 臼井, 松本, 清水, 富家, 柴富, 山中
(3 列目左より) 池田, 米田, 衣笠, 武田
(2 列目左より) 土岐, 碓, 森本, 久米, 堀
(1 列目左より) 福井, 高橋, 岡本, 稲坂, 河野

M15クラス会集合写真

II. M18同期会

M18 漆崎 栄二郎

1970 年に機械工学科を卒業してから今年で丸 45 年が経ちました。7 年前から毎年同期会を開いており、昨年は岡山で開催しました。今年は、東京組も参加しやすいようにと愛知県犬山市で開催することとなり、6 月 20 日(土)に懇親会、翌日に有志によるゴルフコンペを計画しました。犬山市には二つの国宝(犬山城、茶室：如庵)があり、懇親会(宿泊も)は二つの国宝のすぐ近くのホテルで行いました。

当初、懇親会は 18 名、ゴルフコンペ 11 名の参加予定でしたが、直前に突発性難聴やノロウイルス症状(結局、ノロウイルスではなかった)のため、2 名が不参加となりました。

16時頃には参加者全員が集まり、付近のホテルの天然温泉でゆっくり汗を流した後、懇親会が始まりましたが、酒がそこそこ入った時点で、各自の近況報告をはじめ家族、健康等の話に花が咲き、予約していたカラオケセットは結局誰も使わないほど盛り上がりました。

懇親会終了後は、一部屋4人雑魚寝で4部屋確保していましたが、その一部屋に全員が集まり、持ち込の酒とつまみで遅くまでワイワイ騒ぎ、中期高齢者とは思えない元気さでした。

翌朝、朝風呂に浸かって前夜の疲れを癒しましたが、夜半からの大雨で、残念ながらゴルフコンペは中止となり（ゴルフ場がクローズ）、観光組もそうそうに帰路につきました。今回の幹事が稀にみる雨男であったことが、大雨を呼び寄せたものと思われまます。

来年の同期会は神戸方面で開催する予定ですが、再来年は古希の祝いも兼ねた集まりとしたと思います。



(後列左から) 平田, 流郷, 平野, 北薊, 小林, 國光, 漆崎, 田中
 (中列左から) 山崎, 以西
 (前列左から) 竹田, 副島, 高橋, 谷, 菅野, 重近

M18同期会集合写真

◆ 機械クラブホームページのご案内

URL : <http://home.kobe-u.com/ktcm/>

機械クラブホームページでは、各種行事の案内および開催報告、クラス会報告に加えて、卒業生の方々による寄稿文を掲載しております。また、「機械クラブだより」のバックナンバーもご覧いただけます。神戸大学学歌、神戸高等工業学校校歌、寮歌など、紙面ではお伝えできない情報も充実しております。掲載情報を随時更新しておりますので、ホームページもご覧ください。

E メールアドレスを機械クラブ (ktcm@kobe-u.com) までご連絡頂ければ、最新の更新情報をご案内いたします。是非、ご登録下さい。

◆ KTC と KTCM の違いについて

総務部会長 M18 平田 明男

当会の名称「神戸大学 KTC 機械クラブ (略称 KTCM)」に「神戸大学工学振興会 (略称 KTC)」の略称” KTC”が入っていることから両者を混同されている方が少なくありませんが、別組織として運営しておりますので、その違いを下表に示します。

- ・ KTC は入会手続きが必要であり、入会金、寄附金、事業収入により運営されています。
- ・ KTCM は入会手続きが不要で卒業、修了生全員を会員とし、事業収入はなく、皆さまからいただいた年会費、寄附金のみで運営しております。なお、現教員ならびに旧教員には特別会員として入会頂いております。

以上をご理解いただき、別途財務部会からの報告にあります通り、年会費へのご協力よろしくお願い申し上げます。

団体名称 (略称)	神戸大学 KTC 機械クラブ (KTCM)	一般社団法人 神戸大学工学振興会 (KTC)
入会手続き (入会金)	不要です (卒業生, 修了生全員が会員です) (不要です)	必要です (30000 円 : 2015 年 4 月現在)
年会費	2000 円	不要です
寄附	随時, 金額任意	随時, 金額任意
会員数	約 6,000 人	約 21,700 人

【機械クラブだより 第8号】

発行所：神戸大学・機械クラブ(KTCM)

発行人：機械クラブ会長 富田 佳宏

発行日：2015年9月1日

所在地：〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
神戸大学大学院工学研究科機械工学専攻内

URL：<http://home.kobe-u.com/ktcm/>

問合せ窓口：機械工学専攻事務室

Tel：078-803-6152

E-mail：ktcm@kobe-u.com

(原則 E-mail でお願いします。電話での問合せの場合、担当者に取り次ぎし後日担当者から回答することになります。)